

登録番号	20138	作品名	東吉野の家 -omoya- ——歴史ある釜戸を再生利用したダイニングテーブル——		
使用製品 (○をつけてください)	ガラスブロック	ネオパリエ	ラピエ	フィノ	ファイアライト
	グラソア	チュービー	アクリス	ベルーナ	その他の製品

一五〇年程使われてきた古くからの歴史ある「かまど」を利用して食事テーブルとして蘇えらせた。
薪入れ部分に照明を設置することにより「かまど」の形状をより有意義に活用した。



“kamado” that revived as a dining table

～その古くからの「かまど」は「泡ガラス」とビーズにより生まれ変わった～

コメント 150年程度の古民家内の『かまど』それは、一時代の役割を終え、今では無用となっていた。その雰囲気を壊さず、上手に活用することを重点とし、且つ、単にテーブル化するだけではなく、『かまど』の持つ形状特性を生かして薪入れの部分に照明を設置し、その光を有効かつ独創的に活用する為に天板部にビーズと特殊泡入りガラス『アクリス』を採用し他に類を見ないテクスチャーを生み出し、空間に彩りとアクセントを持たせることを目的とし歴史的空間と空間装飾の調和を図った。昔から家の中心にあるこの『かまど』の周りに再び人々が集まり、大勢で団欒することによって、再生が完了されることを期待したい。

全面に敷き詰められたビーズの上に泡入りのガラス『アクリス』を敷き、薪を入れる部分には照明を設置して今までの『かまど』を表現している。

